

## ■ 今月の特選句



## タンポポの綿毛孤独の旅に出る

上山美穂

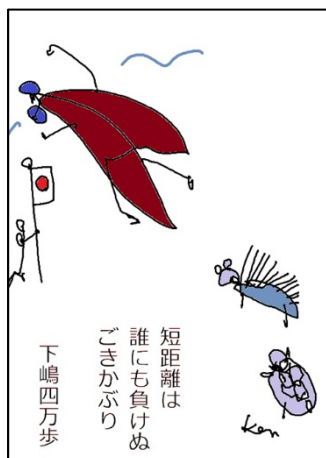
擬人化の句である。自由で明るいタンポポの絮に内包する孤独感が描かれていて深い。タンポポに作者の思いを重ねているのだろう。



## 花粉症予防に長き付けまつ毛

田村米生

なるほど確かに、付けまつ毛は花粉除けになりますね。とすると女性だけでなく花粉症の男性にもお勧めですね。目元パッチリ、視界もスッキリ。



## 短距離は誰にも負けぬごきかぶり

下嶋四万歩

一所懸命は傍から見ると時として滑稽である。ゴキブリの素早い逃げ足は敵ながらあっぱれ、見事さえある。驚いて慌てる姿には健気さも。



## 蛇穴を出て凝った腰肩伸ばしけり

小川鈍太

蛇の腰や肩がどの辺りかは判然とせぬが、冬眠で体のあちこちに凝りがあるのは間違いない。穴を出て凝りをほぐしストレッチする姿が目につかぶ。



## 重力に負ける乳房藤の房

吉川正紀子

「乳房」は「ちちぶさ」と読む。女性ならではの実感を重ねて可笑しい句になった。ただし、重力に負けるのは筋力の低下の場合もあるからご用心。



## 更衣ストリッパーは靴を脱ぐ

西をさむ

仕事柄、年中衣類は身につけていない。唯一、衣装といえるものは靴くらいだから更衣といえば靴を脱ぐことである。誰も気が付かなかった視点。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

更衣去年と同じ組み合わせ ・・・着やすいものが一番楽よ	横山洋子
羽抜鶏頼みの綱は古女房 ・・・古女房にや頭上がらず	青木輝子
鯉幟風の早瀬をひた泳ぐ ・・・泳ぐと見せて流れてるだけ	百千草
一反の金の延べ板麦の秋 ・・・純金の色をしているからに	森岡香代子
出るところへ出たる蚯蚓の運不運 ・・・そのまま干からびる哀れかな	小林英昭
菜の花やあの子何処の子つんのめる ・・・立ち上がるまで見守る一句	相原共良
新社員自動ドアとて一礼す ・・・頼まなくても開くから感謝	赤瀬川至安
鶯やお前も電池切れかけか ・・・谷渡りなら充電せねば	久我正明
葉桜へ場面転換第二幕 ・・・どんなドラマが起きるか知らず	山下正純
催眠術かけられしまま目借時 ・・・自分でかけて狸寝入りか	田中 勇
左遷されよろこび生まる山女釣 ・・・プラス志向でなかなかよろし	荒井 類
夏草の刈られし後は駐車場 ・・・風景詠んで時事の一句に	井口夏子
たんぽぽパッパ咲き居座るつもり ・・・それを黙認するが俳人	鈴木和枝

## ■今月の滑稽句

\* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

ちるはなのちるよろこびのとめどなく  
 花筏風の吹くまま流りたい  
 妻ブランド夫ユニクロ更衣  
 蓼食う虫惚れた欲目のあばたかな  
 虫歯診る佐保姫医師の腹の音  
 あるやなしの通帳記入四月馬鹿  
 万緑や黒髪も赤子も緑  
 雲母より湧き立ちにけり雲の峰  
 うろうろの目玉を隠しサングラス  
 子鴉の遊ぶ塔屋に又一羽  
 生まれ出るは鷹か孔雀か新時代  
 ランドセル一年坊主の夢の箱  
 花粉去りようやく我に春到来  
 子等帰りどっと疲れるゴールデンウィーク  
 たんぽぽに八つ当たりして絮飛ばす  
 あらたまの皐月に命名令和なり  
 母の日やレイを掲げて令和なり  
 五月波起こりて平和令和なり  
 新学期朝に集めるマッチ箱  
 消費税上げてもこの世長閑なる  
 横文字で鳴いてゐる亀外来種  
 胸を張る空の高さよ春の泥  
 チューリップ誰か居る家留守の家  
 大空を風の勝手よ糸切れて  
 過ぎたるは及ばざるもの香水も  
 ジーパンをごはごは洗ひ夏来る  
 万緑の大地見下ろしてドローン  
 名も泳ぐ個人情報こいのぼり  
 高き牡丹座り心地の悪さうな  
 胃カメラの異常なしなり筍飯  
 ハエさんに狙はれオープンカフェのモーニング  
 目の合うて摘むをためらふ土筆の子  
 ぼうたんは淑女の傘をさしてゐる  
 ぼうたんや古刹の暗きしずかさに  
 幼子の飛び石ぴょんぴょん風薫る  
 大型連休我が家はテレビで旅三昧  
 夏近き山の黄緑濃き緑  
 花終わり亀は甲羅を干すことに  
 焦りたるトイレ難民朝寝覚  
 噂やオレオレ詐欺も親を持ち  
 神田川亀集団は花模様

相原共良  
 相原共良  
 青木輝子  
 青木輝子  
 赤瀬川至安  
 赤瀬川至安  
 荒井 類  
 荒井 類  
 井口夏子  
 井口夏子  
 池田亮二  
 池田亮二  
 石塚柚彩  
 石塚柚彩  
 石塚柚彩  
 泉 宗鶴  
 泉 宗鶴  
 泉 宗鶴  
 伊藤浩睦  
 伊藤浩睦  
 伊藤浩睦  
 稲沢進一  
 稲沢進一  
 稲沢進一  
 稲葉純子  
 稲葉純子  
 稲葉純子  
 井野ひろみ  
 井野ひろみ  
 井野ひろみ  
 上山美穂  
 上山美穂  
 梅岡菊子  
 梅岡菊子  
 梅岡菊子  
 梅野光子  
 梅野光子  
 梅野光子  
 太田史彩  
 太田史彩  
 太田史彩

花の雲やまんばが寝にくる頃ぞ  
 ダイエットに風の加減も八重桜  
 あの世この世跨いでおりぬ藤の花  
 バンカラの歌の高らか花見酒  
 平成を惜しみて長居の桜たち  
 新緑の帽子をかぶりお城山  
 風のまま吾の肩抱く柳かな  
 聴力と視力の確認蚊を叩く  
 蓬摘み灸(やいと)の香り思ひ出す  
 春の風邪いえいえ恋の病です  
 見納めと今年も言うて花見かな  
 実を採ればたちまちレモンは花をつけ  
 手ぶらなり猪にたけのこ食べられて  
 初めてのわらびコロッケに大歓声  
 贅沢のゆえの赤字や春らんまん  
 令和号五月一日に出航す  
 母の日や飛行機雲の一直線  
 ふらんすのしだれざくらはふらだんす  
 花は葉にトイレの蓋はその後に  
 影のあるヒロインめきぬ花疲れ  
 花虻の花を物色してをりぬ  
 鈴蘭や令和例礼麗玲鈴  
 コンセントにオスメスあれば亀鳴くや  
 蝶の昼既読スルーにされてゐる  
 海鳴りを聞きし浜辺は五月闇  
 をちこちに蜘蛛の囿ひのチェーン店  
 忍法は伊賀か甲賀かごきかぶり  
 重箱のタニシの一品なつかしく  
 庭椿道行く人に見せて咲く  
 ユスラ桃春を告げんと実を並べ  
 造幣局の「今年の花」は紅手毬  
 造幣局新デザインを思ふ春  
 平成に名残りを惜しむ通り抜け  
 湯に入れば我に擦り寄る菖蒲かな  
 夏草や働きバチが呻き声  
 花筵の御居処冷えきりお開きに  
 日に三度葉代はりに酌む新茶  
 沙汰まはし向かう三軒新茶酌む  
 フィーバーの新元号や四月馬鹿  
 学食をまづは覗いて入学す  
 春愁や下流老人無一物  
 桜鯛どこで釣ったか恵比寿天  
 国境なき大空およぐ鯉のぼり

大林和代  
 大林和代  
 大林和代  
 小笠原満喜恵  
 小笠原満喜恵  
 小笠原満喜恵  
 岡田廣江  
 岡田廣江  
 岡田廣江  
 小川鈍太  
 小川鈍太  
 門田智子  
 門田智子  
 門田智子  
 金城正則  
 金城正則  
 金城正則  
 久我正明  
 久我正明  
 工藤泰子  
 工藤泰子  
 工藤泰子  
 桑田愛子  
 桑田愛子  
 桑田愛子  
 桑田愛子  
 小林英昭  
 小林英昭  
 近藤須美子  
 近藤須美子  
 近藤須美子  
 佐野萬里子  
 佐野萬里子  
 佐野萬里子  
 下嶋四万歩  
 下嶋四万歩  
 壽命秀次  
 壽命秀次  
 壽命秀次  
 白井道義  
 白井道義  
 白井道義  
 水夢  
 水夢

何見ても「まんま」と言う子初幟  
 老木に微風を起こす紋黄蝶  
 平成を大切に包む露の葉  
 令和と決まった日あっちこっち桜  
 啓蟄や鶏を放せば餌いらす  
 矢車や買えば外れる宝くじ  
 騙し絵のように首出し髪洗う  
 幸か不幸か孫持たぬ身の子どもの日  
 目借時三百六十五連休  
 一歳児スマホすいすい立夏かな  
 フェルメールブルーに会はず春の雨  
 花冷の抱き合ってる猿と猿  
 駆け引きは下手にて候馬刀(まで)掴む  
 鼻ぬぐふ花粉症の女かな  
 災ひに巻き込まれずの朝寝かな  
 痛風を忘れうっかり「おいビール」  
 春逝くやドンキホーテの気もそぞろ  
 働ける身体尊し零余子飯  
 大葱坊主令和を祝ひ爆発す  
 柿の葉のてんぶらの美味誰か知る  
 戸口の子雀息絶え絶えに吾を待つ  
 入学児先生読めぬ名前あり  
 花粉症耳だけ難をのがれけり  
 蒲公英の綿毛よ見るな頭頂を  
 蠅払ひ検索画面まで払ひ  
 くぐる子に腹くすぐられ鯉幟  
 改元やアムソーリー騒ぎすぎ  
 厩舎前鼻をつまんで風薫る  
 八十八夜サンバに腰を振る産婆  
 春の服少しはだけてみて固唾  
 痩せたねと言へばご機嫌更衣  
 嫁にしてしまひし罪や桜東風  
 花は葉にカーブの応援あきらめず  
 真夏日の予報にとまどふ春炬燵  
 令和元年五月一日御朱印の列につく  
 平成に咲きて令和のこぼれ梅  
 母の日の母還暦の子を諭す  
 成人式いじめられてるいじめた子  
 六月の悪霊集め腕(もが)く川  
 梅雨入して涙を零す忘れ傘

鈴鹿洋子  
 鈴鹿洋子  
 鈴木和枝  
 鈴木和枝  
 高田敏男  
 高田敏男  
 高田敏男  
 高橋きのこ  
 高橋きのこ  
 高橋きのこ  
 龍田珠美  
 龍田珠美  
 龍田珠美  
 田中 勇  
 田中 勇  
 田中早苗  
 田中早苗  
 田中早苗  
 田中晴美  
 田中晴美  
 田中晴美  
 田村米生  
 田村米生  
 月城花風  
 月城花風  
 月城花風  
 土屋泰山  
 土屋泰山  
 土屋泰山  
 土屋虹魚  
 土屋虹魚  
 土屋虹魚  
 坪田節子  
 坪田節子  
 坪田節子  
 飛田正勝  
 飛田正勝  
 飛田正勝  
 西をさむ  
 西をさむ

輝きが無駄に黄金週間持て余し  
 泳ぐ波蕩か雲か鯉幟  
 花冷や冷えたビールと清い仲  
 竹の子も少子化ならむ顔見せず  
 葉桜の下の宴であるらしい  
 場所問はず匂ひも問はず燕の巢  
 京都まで春のあけぼの見にゆかん  
 甲羅干折り重なりて泣く亀よ  
 飛花落花選挙候補者掲示板  
 うららかや飴の中から新元号  
 磔の蛸大空を泳がされ  
 遠足や天才鈍才紙一重  
 暮遅し怠惰を許してばかりみて  
 陛下お手振り平成の四月尽  
 ひいふうみ子どもと柏餅の数  
 五月晴令和の風のやはらかに  
 平成の塵の断捨離風光る  
 産院を壊されたのか初燕  
 花筏平成連れて流れ去る  
 国技とは白鵬に問う五月場所  
 血糖値気になりながら柏餅  
 平成のカウントダウン春暑し  
 デパ地下で出会う熊本産西瓜  
 心太買い込むダイエットの決意  
 惜春や捨つべきものに囲まれて  
 目に触るるものみな光る聖五月  
 すそ分けの筍ごろごろ厨口  
 黒土のどこまで笑う土竜の巢  
 百寿まで半歩の息へさくら散る  
 たからに令和のラッパ君子欄  
 富士仰ぐ街道筋に花吹雪  
 櫻餅さあさあ張つておくんなせえ  
 葉桜の終の六区の朝歸り  
 ボロが出る現の証拠の花咲いて  
 ビオフェルミン三錠で勝負水鉄砲  
 糶食ひの下戸に蝦蛄剥く上戸かな  
 麦秋や裏作といへ華華し  
 かしましや鶯餅はつられ鳴く  
 ばらよばら命はかなし棘の君  
 尼ふたり名物といふかき氷  
 これだけは捨ててはならじ更衣  
 京はずれねぢられてふきぬ青田風

花岡直樹  
 花岡直樹  
 花岡直樹  
 林 桂子  
 林 桂子  
 林 桂子  
 原田 暉  
 原田 暉  
 原田 暉  
 久松久子  
 久松久子  
 久松久子  
 日根野聖子  
 日根野聖子  
 日根野聖子  
 廣田弘子  
 廣田弘子  
 廣田弘子  
 細川岩男  
 細川岩男  
 細川岩男  
 堀川明子  
 堀川明子  
 堀川明子  
 本門明男  
 本門明男  
 本門明男  
 南とんぼ  
 南とんぼ  
 南とんぼ  
 宮村方圓  
 宮村方圓  
 宮村方圓  
 椋本望生  
 椋本望生  
 椋本望生  
 村松道夫  
 村松道夫  
 村山好昭  
 村山好昭  
 村山好昭



花棟(おうち)わか世可もなく不可もなく  
 連休の初日雨なり柿若葉  
 蜘蛛の子を散らす走りに見惚れおり  
 我海馬短い夜を持て余す  
 立夏とて上半身をまつすぐに  
 タッチした指を引つ込め袋角  
 連の名を法被の襟に阿波踊  
 白シャツの白線引くや白日下  
 豆数に揉めしことあり豆の飯  
 美しき罌振り込め詐欺の蟻地獄  
 新茶淹れ古女房とただ啜る  
 小満の日になんとなく野鳥園  
 籐椅子で風の便りを聞いている  
 早苗饗や王手互ひに待たして  
 野火走り煙たき注意聞かされる  
 在祭禰宜の太鼓はタラントラン  
 やはらかき雲と語るや吹流し  
 遠山の三日見ぬ間の深緑  
 玉葱は鉄板焼の準主役  
 花冷や盛花の時を凍結す  
 鶯の一鳴き山の明転す  
 白着せて幼なと三人夏家族  
 白い花花盛りなり夏の夜  
 ならばしやおはぎにかはる柏餅  
 嫁のなく孫なく軒に燕の子  
 廃校の尊徳像(そんとく)売られ山笑ふ  
 田植機の入らぬ棚田稼ぎ場所  
 お互いの無沙汰帳消し十連休  
 来るはずの新茶待つなり阿闍梨餅  
 風を得て四回転半奴風  
 芍薬に急がされ牡丹散り急ぐ  
 捕れぬ子に金魚領けやる強面  
 戯れに植ゑし糸瓜のうらなりに  
 ひとり居の吾に金魚が私語もらす  
 捨てるとは思いつき切ること更衣  
 極上のスープを広げ蒸トマト  
 ちりめんのちりちりのせて冷奴

百千草  
 百千草  
 森岡香代子  
 森岡香代子  
 八木 健  
 八木 健  
 八木 健  
 八洲忙閑  
 八洲忙閑  
 八洲忙閑  
 八塚一青  
 八塚一青  
 八塚一青  
 柳 紅生  
 柳 紅生  
 柳 紅生  
 柳村光寛  
 柳村光寛  
 柳村光寛  
 山下正純  
 山下正純  
 山本 賜  
 山本 賜  
 山本 賜  
 横山喜三郎  
 横山喜三郎  
 横山喜三郎  
 横山洋子  
 横山洋子  
 吉川正紀子  
 吉川正紀子  
 吉原瑞雲  
 吉原瑞雲  
 吉原瑞雲  
 渡部美香  
 渡部美香  
 渡部美香